

## 開発 NGO・環境 NGO ヒアリング調査票

## 1. フェースシート

## a. 団体概要

組織名	ボルネオ オランウータン サバイバル ファンデーション 日本		
所在地	西東京市田無町 3-5-4		
TEL・FAX	042-451-5346 ・ 042-465-7241		
URL	http://www.bos-japan.jp		
設立年月日	2003	主務官庁	東京都庁
代表者	宮崎林司	責任者	宮崎健人
事業対象分野	オランウータンの保護と熱帯雨林の保護再生		
事業形態	普及啓発 現地団体の活動支援 現地体験ツアーの実施		
事業目的	絶滅の危機、オランウータンの生息地であるインドネシアの森林保護・再生のためオランウータンの現状を広く知らしめると同時に森林におけるオランウータンの役割の重要性（オランウータンは植物の種子を蒔く役割があり、生物多様性維持・森林の保護再生に欠かすことができません）を普及させ、自然の中にオランウータンを戻すこと、彼らの生息地を保護すること、そして同時にオランウータンの生息する熱帯雨林の保護再生に関する事業を行なうこと。オランウータンは、自然の宝庫熱帯雨林の危機の指標動物でもあります。		
事業内容 (うち海外活動)	野生動植物、生物多様性、森林の減少、熱帯雨林の保護		

## b. ヒアリング

ヒアリング実施日	2010年2月23日	時間	14時～15時
対応者名	宮崎林司さん（代表理事）		

## 2. 支援地域情報

## a. 支援対象地域（アジアの都市名・村名）

活動対象国	首都圏及びインドネシア・カリマンタン（ボルネオ島）
現地事務所所在地	Jl Thmenggung Wiradiredja No216 Cimahpar North Bogor 16155-West Java Indonesia
現地の協力団体	Yayasan Penyelamatan Orangutan Borneo The Boreo Orangutan Survival Foundation (BOS)
支援地域	東カリマンタン州 バリックパパン市 サンボジャ地区の施設
当該地域の抱える問題（支援の目的）	東南アジアで急速に進行する熱帯雨林の消失は、オランウータンの生存に深刻な影響を与えている。かつて東南アジアの広い範囲に生息していたといわれるオランウータンは、今ではボルネオ島とスマトラ島の北部でしか確認されていない。

	<p>オランウータンの生息地は過去 20 年で 80%が破壊されたと指摘されており、オランウータンの生存は人間の活動によって急速に追い詰められている。</p> <p>現在では、国際自然保護連合 (IUCN) のレッドデータブックで、オランウータンは絶滅危惧種に指定されている。</p>
貴団体の支援内容	保護林の確保支援、現地体験ツアーの実施

### 3. 支援地域の環境 (生物多様性) の状況等

#### a. 支援活動そのものによる環境の変化、及びその具体的な要因

BOS の本部 (インドネシア) は、生物多様性、生態学、森林再生、アグロフォレストリーなどの専門家をもち、インドネシア森林省との協力の下、世界 13 パートナー組織の支援を得て活動している。BOS 日本もそのうちの一つ。

BOS の活動拠点はインドネシアに 4 箇所あるが、BOS 日本が支援しているのは、東カリマンタン州 バリックパパン市 サンボジャ地区の、オランウータンリハビリセンターである。ここでは、約 220 頭のオランウータンを森に帰す訓練を行っている。(1 頭当たり月間 US\$130 の費用がかかる) インドネシア政府の方針として、2015 年までには、オランウータンを森に帰す「オランウータン保護戦略と行動計画 2007-2017」が決定したが、現在のところ、訓練を終えたオランウータンを帰す森が無い場合、BOS 本部は林業省より保護林の権利を 2009 年 11 月に確保した。しかし、国に使用料を支払う必要があり、現在 BOS 日本において「トラスト募金」を行っている。総額は約 3 億円 (保護林確保費用 100 年間約 2 億円、オランウータンのリリースにかかる費用約 1 億円) が必要である。

リハビリセンターの運営によって、150 人の雇用が増えた。センターで働く住民は、仕事を通じて、オランウータンを保護する重要性、植林の知識を得る機会を得ている。

試験的にアグロフォレストリーを行って果樹などを中心にした植林を行っている。

#### b. 支援以外の要因による環境の変化、及びその具体的な要因

マレーシアは 70 年代からオランウータンを保護してきたが、インドネシアでは保護してこなかった。なぜなら、インドネシアにはオランウータンに対して“見世物”のようにとらえ、保護するという考えがなかったからである。オランウータンは近隣の森林に生息している生物の一つとして、特別視されていなかった。

97 年～98 年にかけて、エルニーニョ現象による森林火災が発生し、見渡す限りなにもない風景に一変してしまった。現地に森を回復させる資金がなく、同年 6 月、日本の企業ビーボコーポレーションが植林用の苗木を寄付した。(後に、ビーボコーポレーションの代表が「ボルネオ・オランウータン・サバイバル・ファンデーション・日本」(BOS 日本)、「アジア植林友好協会」を設立する)

オランウータンは帰る森がない状態にある。山火事も原因の一つだが、違法伐採による影響が大きい。組織的な伐採ではなく、農民が個人的に行っているもので、そのため森林の所々に木が残っている。木を一本伐採し販売すると、およそ一年分の収入になる。他に現金収入のない地域に住む人々は、いくら保護林に指定されていても、伐採してしまうのだろう。このような森にはオランウータンは住むことができない。オランウータンが生息できるのは、手付かずの森だけなのである。

「REDD」(開発途上国における森林の破壊や劣化を回避することで温室効果ガスの排出を削減しようとする行動・プロジェクト)によって、森林の劣化を防ぎ、保護林として守っていくことで、排出権を認めていくという考えが広がり始めた。

カリマンタンでの石炭開発の増加。パームオイルの森林伐採のあと、プランテーションが増えた。

携帯電話、ネットの普及。

火災検知システムの普及。火災に備える。住民による消防団の結成。

生活水準がアップ。教育が受けられるようになった。

#### c. 当該プロジェクトに取り入れている環境配慮・貧困社会配慮は何か

東南アジアで急速に進行する熱帯雨林の消失は、オランウータンの生存に深刻な影響を与えている。かつて東南アジアの広い範囲に生息していたといわれるオランウータンは、今ではボルネオ島とスマトラ島の北部でしか確認されていない。

オランウータンの生息地は過去 20 年で 80%が破壊されたと指摘されており、オランウータンの生存は人間の活動によって急速に追い詰められている。

現在では、国際自然保護連合 (IUCN) のレッドデータブックで、オランウータンは絶滅危惧種に指定されている。

熱帯雨林は二酸化炭素の吸収、気候の安定などの生態系サービスを提供しているだけでなく、多種多様の動植物が共存し、人間にとっても、生活資源を供給している。

一方、木の上で生活をするオランウータンは、木の受粉を媒介するだけでなく、植物の果実を食べ、その種子を糞として分散させ、森をつくっている。つまり、オランウータンが生息することで、熱帯雨林は維持されているともいえる。

BOS 日本では、インドネシアにおけるオランウータンの現状を広く知ってもらうだけでなく、彼らの生息地の保護に寄与するべく、エコツアーの企画、セミナーなどの開催といった活動をしている。

#### 4. 他団体との協力の意向

##### a. これまで他の NGO・専門家との連携があったか

獣医、環境や林業の学位をもった専門家が施設運営に携わっている。

##### b. 貴団体が支援している地域で、もう少し余裕 (資金、人的リソース、時間など) があれば、着手したいと思っている環境改善に係る取組はあるか

保護林 10 万 ha のうち、二次林が 8000ha。ここに「粘土団子」(種を入れ込んだ団子) を蒔きたい。粘土団子は、夜露に強く、虫に食べられない。飛行機やヘリで蒔ける。自然の植生を生かせる。

##### c. 支援対象地域 (村) において、環境 NGO と協力して行いたいことはあるとしたら何か。

あるいは、環境 NGO から学びたいノウハウはあるか。(←開発 NGO のみ)

##### d. 支援対象地域 (村) において、開発 NGO と協力して行いたいことはあるとしたら何か。

あるいは、開発 NGO から学びたいノウハウはあるか。(←環境 NGO のみ)

オランウータンが住める森づくりが発端となって開始した植林だが、森林が安定するには時間がかかるので、その間の自活の道を探りたい。

農民に伐採しないように伝えつつ、代わりになる収入機会として、アグロフォレストリーを進めている。他にも、エコツーリズムの可能性などを模索したい。

欲しい人材：養蜂家、ロタン (藤) 栽培の専門家、エコツーリズムの専門家

- e. アジアで活動しようとする環境 NGO に対して、これまで貴団体が築き上げてきたスキルやノウハウで、応援（提供）できることはあるか（得意分野/専門分野）（←開発 NGO のみ）
- f. アジアで活動しようとする開発 NGO に対して、これまで貴団体が築き上げてきたスキルやノウハウで、応援（提供）できることはあるか（得意分野/専門分野）（←環境 NGO のみ）

## 5. 生物多様性条約締約国会議（COP10）に向けた取組み

a. 貴団体では、生物多様性保全に向けた取組みをしているか、あるいは関心があるか  
オランウータンが生息できる森づくりは、生物多様性が豊かな森林づくりにつながる。

b. 生物多様性条約締約国会議（COP10）で話し合われる議題に関心があるか

日本における生物多様性の取組みとしては里山がよく話題に上がるが、熱帯雨林にも注目してほしい。森を保護するということは、炭素を固定すること。関心を寄せてほしい。

森林の再生にはお金だけでなく時間がかかる。たとえ1500億円を支払っても、瞬時に森が再生するわけではない。

c. 生物多様性条約締約国会議（COP10）に向けて、貴団体では、何か取組みを考えているか

特になし。

## 6. その他

a. BOS 日本支部について

BOS 日本支部を立ち上げる際、法的に日本では、「支部」が認められず、団体名にジャパンをつけた「ボルネオ・オランウータン・サバイバル・ファンデーション・ジャパン」として設立した。インドネシアの本部を中心に、USA、イギリス、カナダなど12箇所に支部を持つ。